

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 保健医療学部

リハビリテーション学科

理学療法学専攻

名 前 塙 大樹

作成日 2023年9月27日

1. 責務 (何を行っているか、何を果たしているか)

担当科目名：「基礎理学療法学」「物理療法学」「物理療法学演習」「理学療法指導論」「理学療法学総合演習Ⅰ(分担)」「理学療法学総合演習Ⅱ(分担)」「職業とキャリア形成(分担)」「表面解剖と触診法(分担)」「運動学実習(分担)」「理学療法画像評価学(分担)」「理学療法学研究法(分担)」「理学療法評価学演習Ⅱ(分担)」「理学療法学見学実習(分担)」「理学療法評価学臨床実習(分担)」「総合臨床実習Ⅰ(分担)」「総合臨床実習Ⅱ(分担)」「卒業研究Ⅰ(分担)」「卒業研究Ⅱ(分担)」

ライセンス教育に加えて「生きる力」を育むべく、高い教養と豊かな倫理観や人間性、総合的視点を重視する本学の教育方針を重視して教育活動を実践した。専門科目においても、知識の実用性について深く掘り下げ、その知識を必要な理由まで学生が習得できるよう、学生間のディスカッションを多く取り入れるように授業を取り入れた。

2. 理念 (教育に対する考え方)

日本は未曾有の少子・超高齢社会を迎えているが、その中でも健康の維持・増進と言う目標を達成しなくてはならない。理学療法士は、今、社会から必要とされている大変重要な仕事である。その使命を学生と一緒に果たせるよう、膨大な知識と繊細な技術への学びを、しっかりと支援する。また、クライアントの苦しみに寄り添い、その回復を喜べる暖かな心遣いも理学療法士には重要である。学生には、大学生活では様々な人と積極的に交流し、豊かな情緒を育んでいただきたいと考えている。

3. 方法 (教育方法において大切にしていること)

理学療法士と言うライセンスを獲得するために、講義には多くの課題を課している。学生にとっては1人では越えられないと感じる壁かも知れないが、本学の「自立と共生の精神」を実践すべく、同級生とのグループワークによって課題を解決してもらっている。また、ライセンス教育に加えて「生きる力」を育むべく、専門科目においても知識の実用性について深く掘り下げ、その知識を必要な理由まで学生が習得できるよう講義を構成している。

4. 成果 (学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について)

「物理療法学演習」授業後のアンケートでは、「優しく教えてくれた」という感想から意見を出しやすい環境づくりに成功したと考えている。そのほか、「実技が多くて楽しかった、身体で体験できたので覚えやすい」「物理療法学で学んだことをこの科目で実際に機器を扱って操作の仕方や設定を学ぶことができた」というフィードバックから、演習を通して既存の知識を深化させるという、教員の責務の一端は果たせたものと考えている。一方、演習中に機器の動作不良が起きたこともあったのは自省すべき点であった。大学らしく、常に臨床で使用している最新機器を導入することで、より一層充実感を得られる授業にしたいと考えている。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

短期目標として、次年度の授業アンケートまでに「わかりやすかった」という評価を1人でも増やすこと（「専門用語が多く難しかった」という感想をなくすこと）を挙げる。そのために、教授内容を分かりやすくすることも心掛けるが、学生が自主的に取り組める環境を用意することが肝要であると考え。控えめな学生・消極的な学生も自主的にグループ学習に取り組める雰囲気醸成する必要がある。そのため、題材を用意した調べもの学習を増やしたり、症例をもとに議論する機会を増やしたりと言った具体的な方策を取る。中期目標として、全ての学生がグループ学習に自主的に取り組めることを挙げる。

* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

【添付資料】

* TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
（シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。）